【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第１区分
【発行日】令和1年11月28日(2019.11.28)

【公開番号】特開2018-142463(P2018-142463A)
【公開日】平成30年9月13日(2018.9.13)
【年通号数】公開・登録公報2018-035
【出願番号】特願2017-36386(P2017-36386)
【国際特許分類】
*Ｈ０１Ｒ　13/72　(2006.01)*
*Ｈ０１Ｒ　24/38　(2011.01)*
*Ｈ０１Ｒ　13/506　(2006.01)*
*Ｈ０１Ｒ　13/56　(2006.01)*
【ＦＩ】
Ｈ０１Ｒ　13/72
Ｈ０１Ｒ　24/38
Ｈ０１Ｒ　13/506
Ｈ０１Ｒ　13/56

【手続補正書】
【提出日】令和1年10月15日(2019.10.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項７】
請求項６に記載の保持部材であって、
前記カバー部には、前記前後方向に延びる少なくとも一つの受容溝が形成されており、
前記第１保持部材と前記第２保持部材とが組み合わされた状態において、前記第２群の前記第１係止部の少なくとも一部は、前記受容溝内に収容されている
保持部材。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３２】
図１０に加え図８及び図９を参照すると、カバー部５３２の夫々には、複数の凸部５３６と溝５３８とが形成されている。溝５３８は、複数の受容溝５４０と受容溝５４０を相互に連結する連結溝５４２とを含む。凸部５３６は前後方向に延びており、受容溝５４０も前後方向に延びている。前後方向に沿って見たとき、隣り合う二つの凸部５３６の各々と第２仮想軸ＡＸ２とを結ぶ二つの線が形成する角度β２は、調整可能角度に等しい。同様に、前後方向に沿って見たとき、隣り合う二つの溝５３８の各々と第２仮想軸ＡＸ２とを結ぶ二つの線が形成する角度α２は、調整可能角度等しい。各凸部５３６は、コンタクト保持部材４０の溝４２４に受容可能に形成されている。凸部５３６の側面５４８は、後述するように第２回転防止部として機能する。換言すると、ケーブル保持部材５０には、第２回転防止部が形成されている。溝５３８は、一部の突起４２２を受容するように形成されている。各受容溝５４０は、いずれか一つの突起４２２を受容可能である。これにより、コンタクト保持部材４０とケーブル保持部材５０とが組み合わされた状態において、

カバー部５３２が突起４２２に乗り上げないようにしている。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
再び図８を参照すると、凹部５２４に受容されていない第２群の突起４２２の一部は、スリット５３４に収容されている。即ち、第２群の第１係止部の一部はスリット５３４に収容されている。スリット５３４は、一つ以上の突起４２２を収容できる大きさに形成されている。詳しくは、第２仮想軸ＡＸ２の周方向において、スリット５３４の幅は、一つ以上の突起４２２を収容できる大きさに形成されている。本実施の形態において、各スリット５３４には、一つの突起４２２、即ち第２群の第１係止部の一つが収容されている。しかしながら、第２仮想軸ＡＸ２の周方向において、スリット５３４の幅は、二つ以上の突起４２２を収容できるほど広くてもよいし、突起４２２の幅より狭くてもよい。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４５】
図１３に示されるように、コンタクト保持部材４０Ａとケーブル保持部材５０Ａとが組み合わされた状態において、突起５５２の夫々は、凹部４５０のいずれか一つに受容される。三つの突起５５２のすべてが、同じ凹部４５０に受容される場合（図１３）のほか、三つの突起５５２が隣り合う二つの凹部４５０に受容される場合（図示せず）もある。三つの突起５５２が隣り合う二つの凹部４５０に受容される場合には、一方の凹部４５０が一つの突起５５２を受容し、他方の凹部４５０が二つの突起５５２を受容する場合と、一方の凹部４５０が二つの突起５５２を受容し、他方の凹部４５０が一つの突起５５２を受容する場合とがある。三つの突起５５２が隣り合う二つの凹部４５０に受容される場合、二つの凹部４５０の間に位置する支柱部４５８は、第１仮想軸ＡＸ１の周方向において、二つの突起５５２の間に位置する。上記三つの場合のいずれにおいても、すべての凹部４５０のうちの一つを部分的に規定する第１側壁面４５４が、すべての突起５５２のうちの一つの第１側面５５６（図１２参照）と対向する。また、すべての凹部４５０のうちの一つを部分的に規定する第２側壁面４５６が、すべての突起５５２のうちの一つの第２側面５５８（図１２参照）と対向する。これにより、コンタクト保持部材４０Ａに対する、仮想軸ＡＸ２を軸とするケーブル保持部材５０Ａの回転が防止される。また、この構成により、凹部４５０の数よりもケーブル７０を引き出せる方向の数を多くすることができる。本実施の形態では、凹部４５０が八つ設けられ、突起５５２が三つ設けられているので、コンタクト保持部材４０Ａに対するケーブル保持部材５０Ａの第２仮想軸ＡＸ２の周りの相対角度を２４通りに変更することができる。換言すると、コンタクト保持部材４０Ａに対してケーブル７０の引き出し方向を２４通りに変更することができる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４９】
１０　　コネクタ組立体
２０　　コネクタ
３０，３０Ａ　　保持部材

４０，４０Ａ　コンタクト保持部材
４１０　嵌合部
４２０　取り付け部
４２２　突起
４２４　溝
４２６　前面
４２８　上面
４３０　後面
４３２　側面
４３４　側壁
４４０　連結部
４５０　凹部
４５２　後側内壁面
４５４　第１側壁面
４５６　第２側壁面
４５８　支柱部
４６０　ロック機構
４６２　ロック部
４６４　操作部
５０，５０Ａ　ケーブル保持部材
５１０　基部
５２０　受部
５２２　保持腕部
５２４　凹部
５２６　前端部
５２８　支持部
５２９　支柱部
５３０　前側内壁面
５３１　側面
５３２　カバー部
５３４　スリット
５３６　凸部
５３８　溝
５４０　受容溝
５４２　連結溝
５４６　側壁
５４８　側面
５５０　支持部
５５２　突起
５５４　後面
５５６　第１側面
５５８　第２側面
６０　コンタクト
６１２　中心導体
６１４　外部導体
７０　ケーブル
８０　相手側コネクタ
８１０　相手側嵌合部
８５０　被ロック部